

千葉商科大学の ESG 投資

内田茂男（千葉商科大学）

<Abstract>

千葉商科大学は、ESG(Environmnt,Social,Governance)行動に取り組む日本株を組み入れた株式投資信託への投資を昨年 5 月から開始した。日本の大学では初めてと見られている。ESG投資に踏み切った理由は大きく三つある。

第1は、本学が今年度から施行している第Ⅱ期中期経営計画(2019-2023年度)で、2015年に国連の全加盟国が合意したSDGs(Sustainable Development Goals)の実現に研究、教育の両面から貢献する大学となることを重点戦略の柱に掲げたことである。本学はすでに2年前から学長プロジェクトとしてSDGs達成に向けた行動を始めている。

第2は、ESG投資が世界の潮流になりつつあることである。ESGデータを収集しているGSIA(Global Sustainable Investment Alliance)の2018年報告書によると、世界のESG投資は2018年には2016年に比べ34%増えて30兆ドルを超えたという。この間、日本のESG投資も急増し、2018年には2兆ドルを超えたと報告されている。これは全投資残高の18.3%に当たる。

第3は、本学の投資方針の変更である。本学は2008年に有価証券運用を始めたのだが、これまでは債券投資によって年間のインカムゲインを確保することに主眼を置いていた。しかし、超金融緩和政策によって債券投資の利回りは急速に低下してきている。そこで運用の重点を年間のインカムゲイン確保から長期運用による資産拡大に切り替えたのである。これによってリスクの大きい株式を組み込んだESG投資も運用対象に組み込めるようになったのである。

本学のESG投資は専門機関が独自のESG基準でスクリーニングした銘柄を組み込んだ投資信託(ESGファンド)を購入する方式をとっている。まだ投資を始めて間もないのでパフォーマンスを評価する段階に至っていない。

ESG investment of CUC (Chiba University of Commerce)

Shigeo Uchida (Chiba University of Commerce)

<Abstract>

Chiba University of Commerce started to purchase a stock investment trust incorporating the shares of Japanese companies working on ESG behavior last May.

There are three major reasons for us to invest in ESG fund.

The first. We started the phase 2 medium-term management plan(FY2019-2023) . The most important target of this plan is enforcing SDGs behavior and contributing to realize SDGs. Fortunately, two years ago, the president project has started to work towards achieving SDGs.

The second. ESG investment is becoming a global trend. According to GSIA(Global sustainable Investment Alliance) 2018 report global ESG investment has surged and this report says that the total global ESG investment in 2018 has increased by about 34% from 2016 and has surpassed 30 trillion dollars in 2018. Meanwhile, our country's ESG investment in 2018 is reported to have surpassed 2 trillion dollars This is 18.3 % of total investment.

The third. We changed our financial investment policy. We began our financial investment to get annual income gain through mainly by invest to Japanese company's bonds.

However, the yield on bond has been declining rapidly due to the continuation of BOJ's ultra monetary easing policy. Therefore, the focus of our financial investment was switched from annual income gain to asset expansion through long-term investment. THIs policy change has made it possible to incorporate ESG investment fund with high fluctuation risk. Our ESG fund has been incorporating the selected stocks screened by the specialized agency. It has not yet reached the stage of evaluating its performance.

千葉商科大学の ESG 投資

内田茂男（千葉商科大学）

千葉商科大学が日本株を対象にした ESG 投資を開始して日が浅いので、以下、主に ESG 投資に踏み切った背景について述べてみたい。

1 ESG 投資を始めた背景

中期経営計画に SDGs 先進大学を明示

千葉商科大学は昨年 5 月から総額 10 億円の日本株対象の ESG (Environment, Social, Governance) 投資を始めた。日本の大学では初めてとみられている。本学が ESG 投資を始めた背景は主として次の 3 点である。

その第 1。本学は今年度から第Ⅱ期中期経営計画（2019—2023 年度）の実施段階に入っている。この計画で本学の目指すべき方向は、「IST 戦略」という標語で表現されている。三つの目標は①I(Information)：デジタル社会をリードする大学となる②S(SDGs)：国連で合意された SDGs (Sustainable Development Goals) の実現に貢献する大学となる③T(Trust)：社会に信頼される大学となる——である。社会は予測不能のスピードで変化しているが、SDGs の目標はいずれも社会が生き残るうえで必須の条件を提示したもので、SDGs 達成に向けた行動が社会のメガトレンドとならねばならないし、そうでなければ社会に信頼されないはずだ。

すでに本学は 2 年前から学長プロジェクトとして SDGs 達成に向けた行動を開始している。その一環として 2020 年度までに「自然エネルギー100%大学」（自然エネルギー発電量が消費エネルギー量と同等かそれ以上の大学）となることを目標としてさまざまな取り組みを始めているが、2018 年度には自然エネルギー発電量が消費電力量を上回るという第 1 次目標を達成した。

本学の ESG 投資は以上の本学の SDGs 行動に大きく貢献する具体的戦略として企画されたのである。その際、世界の潮流の変化も考慮した。これが ESG 投資を始めた第 2 の背景である。

ESG 投資は世界の潮流

2006 年に国連のアナン事務総長が世界の機関投資家に ESG 概念を組み込んだ「責任投資原則」(PRI:Principles for Responsible Investment) を提唱して以来、PRI に署名した機関投資家は 2006 年の 63 機関から 1961 機関 (2018 年) に増え、運用資産も 6.5 億ドル (2006 年) から 81.7 億ドル (2018 年) に急増した。2015 年には世界最大の機関投資家で、日本の公的年金の運用機関である GPIF (Government Pension Investment Fund : 年金積立金管理運用独立行政法人) も署名した。

世界の ESG 投資データを収集している国際団体の GSIA(Global Sustainable Investment Alliance)は、2019 年 3 月に発表した統計報告書（2 年に 1 度集計・公表）¹によると、世界の ESG 投資は 2016 年には 228900 億ドル（約 2500 兆円）だったのが、2018 年には 306830 億ドル（約 3400 兆円）になった。ESG 投資残高の全投資残高の比率は、EU が 48.8%（2016 年 52.6%）、アメリカ 25.7%（同 21.6%）に対し、日本は 18.3%（同 3.4%）だった。ESG 投資は世界の潮流、メガトレンドとなっている。まだ日本は後発国の色彩が強いが、最近急激に増えていることが注目される。

インカムゲインから資産増加へ——運用方針を転換

ESG 投資を始めた第 3 の背景は、本学の資金運用の方針をそれまでの年間インカムゲイン確保から運用資産の長期的拡大に変更したことである。

本学はリーマンショックが発生した 2008 年 9 月 15 日の 2 ヶ月前に資金運用委員会を立ち上げ、本格的な金融資産運用を始めた。それまではもっぱら銀行預金で運用していたのだが、銀行のペイオフが解禁され、銀行預金も必ずしもリスクフリーとはいえなくなったことがきっかけとなった。

当初の資金運用の基本的な資産構成（ポートフォリオ）は、長期的に資産を増やすことを目標とする長期運用が全体の 1 / 3 程度、債券への投資で定期的にインカムゲインを確保することを目標とするインカムゲイン型が全体の 2 / 3 程度だったが、その後ほぼ 10 年、このやり方を踏襲してきた。

ただ長期にわたって超低金利政策が行われたため、インカムゲインはほとんど期待できなくなった。そこで昨年度から長期運用型を主力とする運用方針に切り替えたのである。株式を組み入れる ESG 投資はこの長期運用によって初めて資金運用の対象に入ってくる。リスクが抑えられるからである。

2 ESG 投資の概要とパフォーマンス

ESG 投資適格銘柄を専門家がスクリーニング

千葉商科大学の ESG 投資は、三井住友信託銀行が運用する ESG ファンドを購入するというかたちをとっている。このファンドは投資対象を日本株に限定し、系列のシンクタンクである日本総研と共同で投資適格銘柄を選定している。選定の手順は次の通りである。

- (1) 日本総研が公開情報および企業へのアンケートを基に約 2000 社の企業から ESG の取り組みに優れている約 400 社を選定する。
- (2) 三井住友信託銀行がその 400 社を対象に、社内アナリスの情報を加味して、ESG への取り組みが対象会社の成長に結びつくどうか、株価の評価の観点から魅力があるかどうか、を基準に投資適格性をランク付けする。
- (3) そのランク付けをもとに 2 人のファンドマネージャーが自ら収集した情報と過去の経験を加えて約 70 銘柄を選定し投資する。

1 年間の投資成果は良好とはいえないが―

本学ではこのファンドにリスクの時間分散という観点から昨年5月からことし2月まで3回に分けて合計10億円を投資した。期待リターンはベンチマークのTOPIXの利回りを年率3%上回る（目標超過収益率：年率3% リスク：同8%）に設定した。

投資開始以来1年間のパフォーマンスはベンチマークに及ばず必ずしも良好とはいえない。株式市場が全体として乱高下した状況のもとで利回り確保を目的に短期売買を繰り返したことが原因の一つだと考えられる。

ただESG投資の成果は本来、長期で表れるものだと考えている。

3 むすび

資金運用の目標をもっぱらパフォーマンスに求めるなら、現状ではESG投資は必ずしも最適な運用手段とはいえない。投資対象が限定されることに加え、ESG行動に熱心な企業の業績がそうでない企業に比べ良好であるとは限らないからだ。財務情報に加え非財務情報を盛り込んだ統合報告書を発行する上場企業が400社に達したという報道²もあり、ESG企業のスクリーニングも精度を高めているが、まだまだ発展途上といわざるをえない。

<注>

1 <https://sustainablejapan.jp>

2 日本経済新聞 2019年2月4日付け朝刊